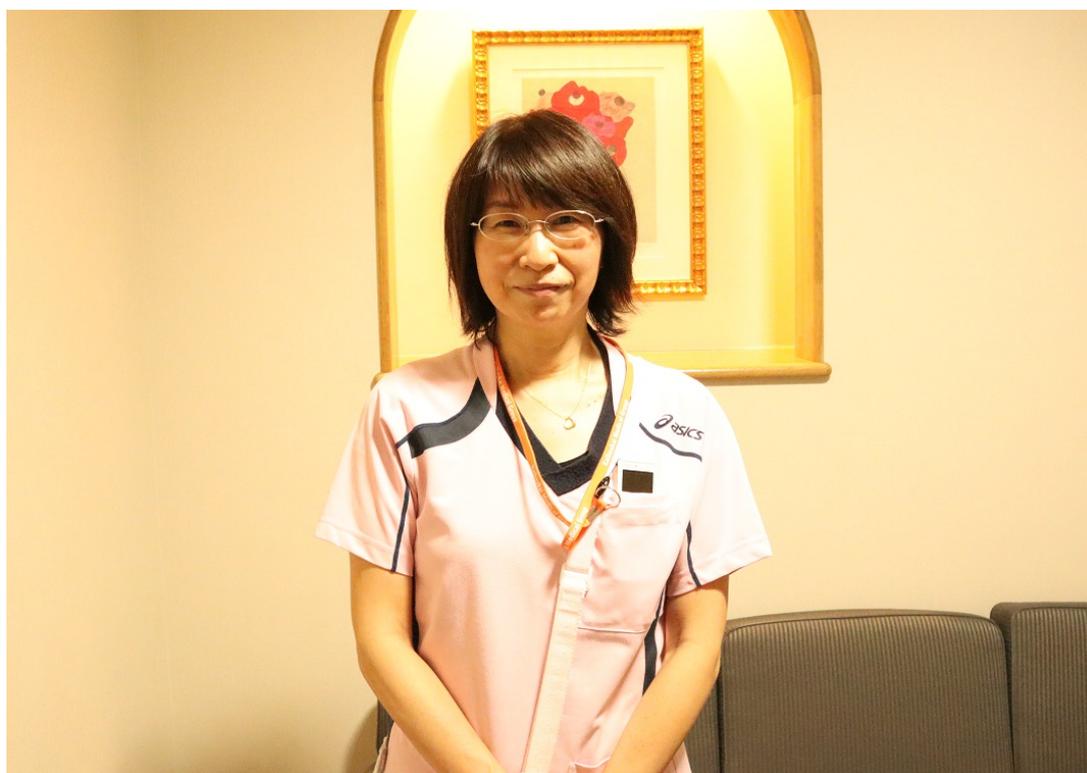


PROFILE

施設	偕行会リハビリテーション病院
所属部署	透析センター
入職年	1994年
氏名	H・Mさん

新卒で急性期病院（呼吸器内科・整形外科・循環器内科）に入職し、計6年勤務。その後、結婚による転居に伴い偕行会グループへ転職。海部共立クリニックを始まりとし、名古屋共立病院の病棟及び透析室への異動や、偕行会セントラルクリニック及び偕行会リハビリテーション病院透析センターの立ち上げなどさまざまな経験をしながら、看護師としてのキャリアを積む。現在は偕行会リハビリテーション病院透析センターの課長として、患者さまへの良質な看護の提供はもちろんスタッフの育成に努めている。



①さまざまな経験ができる環境で私らしく楽しく働く



もともと透析に興味があり、偕行会グループが透析に力を入れている法人ということも知っていたため、結婚に伴う転居の際に海部共立クリニックに転職をしたという。

(H・Mさん)

「入職後は専門的な知識や判断力が身につくこと、患者さまと長く関われること、そして看護をする中で患者さまから教えていただくことも多く、人として成長ができることに

透析看護のやりがいを感じ業務を行っていました。

そんな中、クリニックでの外来透析だけではなく入院透析やCAPDにも興味を抱き、

それらを行っている名古屋共立病院への研修を希望したところ、

入社1年目にも関わらず1週間ほど研修に行かせてもらいました。

その際に、やりたいことや知りたいことをかなえてくれる法人であると強く感じ、その環境があるからこそ楽しく看護師として成長ができていると感じます。」

その後さまざまな経験を経て、透析室の立ち上げに2回携わったが、その際も職場からの心強い支援があったという。

(H・Mさん)

「1回目は課長になったばかりのころ。

偕行会グループの透析施設の中でもメインクリニックである、偕行会セントラルクリニックの立ち上げでした。

初めてのことで、人と物を再構築する点が特に大変でしたが、

上司に支援をしてもらったり、都度勉強したりするなど、知識がつくことを楽しみながら行いました。

自分の意見もかなり反映していただけたので、とても貴重な経験だったと感じています。2回目は今の職場でもある偕行会リハビリテーション病院の透析センターの立ち上げです。

こちらは前回の経験を踏まえてより主体的に携わることができたと感じています。」

②知識習得や経験に対して万全のサポート体制

透析技術認定士や認定管理者、救急救命士の資格をもつH・Mさんであるが、学びたいことがあれば背中を押してくれる環境があるからこそ、さまざまな分野に挑戦ができたという。

(H・Mさん)

「資格取得のために、長期間の講習を受講することもあります。

その際は一時的に職場を離れることになりますが、上司をはじめ職場のスタッフが応援してくれたので、安心して受講することができました。

また、偕行会グループには“資格取得支援制度”があり、講習で仕事を休んでいる期間の給与補助や

講習費全額補助など、金銭面からのサポート体制も万全です。」

現在は透析センターの課長として教育担当も担っているというが、教育をする上で大切にしていることがあるという。

(H・Mさん)

「上司の支援や背中を押してくれる職場の雰囲気があったからこそ、自身の希望をかなえることができたと感じています。

今度は自分が得た知識を現場スタッフへ伝えていくことが自分の役割だと考えています。

勉強会を企画したり、新人研修のカリキュラムに外部施設の見学会を組みこんだり、スタッフが経験できる場を多く設けることを意識しています。

また、偕行会グループは認定看護師資格取得支援制度や資格取得報奨金など看護師として成長するための制度がとても整っています。

希望者には積極的に研修参加や資格取得をしていただきたいので、

今後もそのようなスタッフがいたら応援をしていきたいと思います。」

③常に患者さまのことを想って行動する



現在は透析センターの課長を務めるH・Mさん。
日々看護をする際に大切にしていることがあるという。

(H・Mさん)

「入院されている患者さまとは違い、センターに通院されている患者さまと関わる時間は1日の内で限られています。

その中で、患者さまの日々の変化やニーズを知り、それに応じて看護を行うことがとても大切です。

短い時間で患者さまを深く知るために、患者さまと1対1の空間でのコミュニケーションを大切にしています。」

そんな透析センターは、明るいスタッフばかり。常に患者さまに関する話で持ちきりである。

(H・Mさん)

「例えば透析に対して前向きになれない患者さまがいたときは、

どのように働きかけるとより患者さまのためになるかをチームで話し合いをします。

患者さまだけでなく、ご家族とのコミュニケーションを大切にするなどよりよい看護をチームで見つけていきます。

透析は機械的な作業と思われがちですが、そうではなく看護師として患者さまのことを常に考え、

作業ではなく“看護”をしているスタッフばかりです。」

透析をメインに幅広いキャリアを積むH・Mさん。

偕行会グループだからこそさまざまな経験ができ、

その結果看護師としての知識はもちろん問題解決力や発言力、行動力、

臨機応変さなどが身につき人としても自信がついたと話すH・Mさん。

その表情からは自分らしく、誇りをもって看護師として歩んでいる様子が伺えた。